

Nostalgic Hero

The premier Japanese classic car magazine
ノスタルジックヒーロー

2017年7月1日発行
(隔月寄数月1日発行・隔月寄数月1日発売) 第30巻3号
平成10年6月4日第三種郵便認可
クラシックカーを愛する人へ

特別付録 DVD
名車烈伝
VOL.11

富士ワンダーランドフェス!
第9回ノスタルジック2デイズ
2017ダイジェスト
The history of SUBARU



Vol. 181

TOP ARTICLE ● 特集 スカイライン誕生60周年記念企画 第一弾

プリンスと日産

A Historical Perspective of Prince and Nissan

- R21A-1 プリンス スカイラインスポーツ・クーペ
- ALSIEL-1 プリンス スカイライン
- S57 日産プリンス スカイライン1500デラックス
- S54B-3 日産プリンス スカイライン2000 GT-B
- KC10 日産スカイライン2ドアハードトップ1500
- PGC10 日産スカイライン2000 GT-R



● 第3特集

ワンボックスパラダイス

KPSE22GAキャラバンコーチ & RH23Gハイエースワゴン

● EVENT

小美玉オールドカーミーティング2017
富士ワンダーランドフェス!
JCCA富士ジャンボリー ほか

● 第2特集

第9回ノスタルジック2デイズ2017

会場レポート&横山剣スペシャル・インタビュー

6

2017 JUNE

3台収納可能な木造ガレージを新築! 作業場&憩いのスペースも充実

Garage of Hero

ガ
レ
ー
ジ
の
棲
む

Vol.79

岡山県・富松拓也さん宅

クルマ好きの病のひとつに、次から次と欲しいクルマを手に入れるという、重いものがある。今回紹介するオーナーは、S30Zを筆頭に、マツダR360クーペ、そしてフェラーリ512BBiなどを所有。元々のガレージは作業スペースとし、保管用にガレージを新築。センス抜群の仕上がりのだ

TEXT : NOSTALGIC HERO/編集部

PHOTO : RYOTA-RAW SHIMIZU/清水良太郎

ILLUST : MASAKI TAKANASHI/高梨真樹

ガレージ内は木造のトラス構造となっていて、幅が8mにもなるが、強度は確保されている。天井にはLED照明が配置されていて、明るさも十分。換気用の窓の棧は、ディスプレイスペースとして活用している。



新築のガレージは、クルマ3台が余裕で収まるスペースを確保。正面の扉は4枚の木製の扉で、左右に開く引き戸となっている。ガレージの外壁は焼き板を横に組み合わせたおしゃれなデザインで、クルマ好きの友人たちの力を結集した力作がそうだ。



換気用の窓も、ガラスではなく外壁と同じ焼き板で、跳ね上げ式で製作。レトロな雰囲気がガレージのデザインとマッチしており、風通しも十分。



正面の引き戸のレールは、1枚の厚さ2.2mmのステンレス板を曲げて作った力作。そのかいあって、扉を開く際もスムーズに動かせるそうだ。





左右の壁は、正面の壁より前に張り出していて、垂直ではなく斜めにカットされたデザイン。なんとなく初代デボネアを彷彿させる趣向だが、デザイナーのセンスによるもの。張り出しを生かしてひさしも取り付けられている。

写真の右側には母屋が建っていて、元々は子供たちが遊べる広いスペースがあった。そのスペースにコンクリートを打ち、3台分の木造ガレージと1台分(奥さま用)の駐車スペースを新たに製作。敷地的には、まだ余裕があり、遊びに来る旧車仲間の駐車スペースも確保している。うらやましい環境だ。



夜になると、ちょうど中央にLEDのスポットライトが点灯する。木製の扉はほんのわずかにすき間があるため、ガレージ内の光が漏れて、独特の雰囲気となる。



友人の大工さんが思いついたアイデアで、奥の壁の上側を縦30cm×幅750cmで切り取り、そこにポリカ板をはめている。「天気がいいと、スカッと青空が見えて、内部が明るくなりました」と大満足。

Garage of Hero

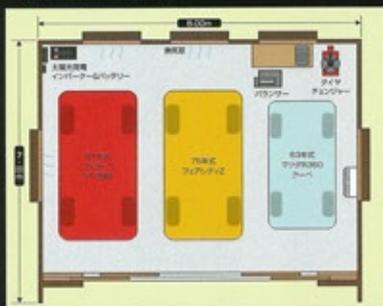


「トミタク」こと富松拓也さんと、奥さまの飛鳥さん、長女の夏音ちゃん、次女の穂歌ちゃん。奥さまはクルマにはほとんど興味が無いらしいが、2人のお嬢さんはR360クーペがお気に入り、ドライブにも付き合ってくれるそうだ。

GARAGE DATA

- オーナー ● 富松拓也さん
- 所在地 ● 岡山県
- 構造 ● 木造トラス構造
- 面積 ● 約56㎡
- 築年数 ● 約1年
- 建築費 ● 不明
- 収蔵車 ● 63年式 マツダR360クーペ
75年式 フェアレディZ
81年式 フェラーリ512BBi

ガレージ見取り図



内部の壁は、紙の防水シートを貼った状態のままだが、白い紙なので明るい印象だ。中央上にはエアコンが装備され、太陽光発電で稼働する。

ガレージ内の電球は、普通の裸電球に見えるが、実はLED球。消費電力が少なく、それでいて明るさは十分とのこと。



窓の枠を利用し、クルマ雑誌や写真パネル、小物などをディスプレイ。エアコンの配管も目立たないように工夫してある。



木製フォトフレームには、オーバーホールをした際に撮影した元祖TC24と富士スピードウェイでの日産ワークス240ZGとのツーショットだ。



①屋根に取り付けた太陽光パネルは300Wのタイプ。②太陽光パネルで発電した電気を、バッテリーに充電するためのチャージコントローラー。当初は20アンペアだったが、容量が足りないため30アンペアに変更したそうだ。③壁に取り付けたチャージコントローラーから大容量バッテリーに接続して充電。バッテリーから電球やエアコン、換気扇に配線し、24時間換気もOK。



④ガレージの奥には、タイヤチェンジャーとバランスを完備する。あくまで個人の趣味であって、本業ではないので、ほとんど使わないそうだ。⑤排ガスがガレージ内に充填しないように、S30Zの後方、壁の下側には、排ガスを排出する窓を設置。

「トミタク」こと富松拓也さん。友人の大工さんが思いついたアイデアで、奥の壁の上側を縦30cm×幅750cmで切り取り、そこにポリカ板をはめている。「天気がいいと、スカッと青空が見えて、内部が明るくなりました」と大満足。

「クルマ好きによくあることだが、1台では飽きたらず、2台目、3台目と愛車を増やすという病がある。クルマ中毒ともいえるが、ほとんどの場合は一生治らないことが多いようだ。今回紹介する富松拓也さんは、かなり重症のようで、元からあったガレージに愛車が収まり切らなくなり、新たに木造のガレージを建ててしまったのだ。

「トミタク」の愛称で業界内ではかなり有名な富松さん。実は、本誌でも何度か紹介しており、現在の愛車はOS技研から1980年に発表されたL型6気筒DOHCエンジンとなる元祖TC24を搭載したS30Z、マツダR360クーペ、ホンダS600、そしてフェラーリ512BBiという豪華なライオンナップ。これまでは、ヨタハチ、ホンダS800、BMW850iと320、ボルシエ930ターボなどなど、世界の名車乗り継いでいる。

しかも、ただ乗り継ぐわけではなく、エンジンのOHや改良を自身で施すことで、入手した時よりも格段にコンディションを良くしていくのが趣味でもある。そのため、元々のガレージ内には、5尺旋盤、フライス盤、コンターマシン、溶接機、ベルトサンダー、スクリュー式コンプレッサー、2柱リフト、バルブシートカッター（スイスのミラー社製）、サンドブラスト、ポーリングマシン、ホーニングマシンを完備。自分のクルマや仲間、その友達のクルマを、夜な夜なイジるのが生きがいだという。

「断っておきますが、専門のプロショップではないですし、あくまでも趣味の延長です。トラブルを抱えた仲間のクルマを助けてあげたりする、クルマイジリ趣味の範疇ですよ」と富松さん。



13



6

⑥作業スペースに設置されたフライス盤で作業する富松さん。自分のクルマの部品はもちろん、困っている旧車仲間の部品を製作したりしている。⑦フライス盤、5尺旋盤などが設置された作業スペース。貴重な元祖TC24の欠品部品なども製作している。



7

⑬2008年に購入した純和風の中古住宅に付属していた2階建ての事務所。ここを、ガレージ兼作業スペースとして使っていたが、クルマが増えたため、今回のガレージを新築した。⑭壁に取り付けられている「Office Tomitaku」のネームプレート。あくまで個人の趣味のガレージで、友人が作ってくれたもの。⑮天井近くに並べられたタコ足は、元祖TC24用の仕様違いで、取り回しなどが異なる。



軽量コンパクトなフィアットX1/9は、友人の所有車。たまたまチェック＆整備をかねて遊びに来ていて、リフトアップするところ。



14



15



9



8

⑧ガレージ奥のスペースにホンダS600の64年式を発見。以前、エスハチとエスロク(65年式)を所有しており、このエスロクで3台目。⑨運転席に座ってご満悦の富松さん。各部のOHは今後のお楽しみ!



12



11



10

⑩作業スペースの2階には、お宝パーツを保管。L型4気筒をベースにDOHCヘッドを搭載したLZ型エンジンが鎮座。ドライサンプシステムなども当時のまま。⑪床に並べられているのは、元祖TC24のスペア用のクランクシャフト。貴重なレース用のオプションクランクもストックしている。⑫フェラーリ512BBi用のチタン製フルエキゾーストとキャブ。どうやらキャブ仕様を計画しているようだ。



16



18



17

⑩2階は、元々は事務所として使われていたこともあって広く、テーブルと椅子を置いて憩いのスペースとして活用。トイレと水回り、さらに物置として使っている部屋がある。⑪奥には製図用のドラフターが置かれていて、手描きで図面を引くこともあるそうだ。⑫旧車仲間たちと取材の合間にひと息。左から、片岡信和さん、小野田竜也さん、片岡功一さんといういつものメンバー。



オーディオも趣味のひとつで、当時の日本の最高級機といわれたラックスマンのSQ-38DとCL35がラックの中に収まっていた。真空管アンプを中学生の頃にOHしたそうだ。下は小学生の頃にプラモデルをラジコンに改造したものだ。



キックボードの改造に凝った時期があり、ラジコン用のエンジンを組み込んだ力作。エンジンで走行できるスグレモノだ。

「ガレージ内の換気をどうしようかと考え、太陽光発電を取り入れました。とりあえず300Wのパネルを屋根に取り付け、配線に悩みながら設置したところ、正直ナメていましたが、恐るべし太陽光です。エアコンも使えるようになりましたから!」と大絶賛。ガレージと作業場という夢の空間を手に入れたことで、富松さんのクルマ中毒は、まだまだエスカレートするに違いない。

そのための工作機械などを元々のガレージに収めた結果、大切な愛車が入り切らなくなり、友人宅に置かせてもらっていたりしていた。そこで、2016年の春頃から、敷地内に倉庫(ガレージ)を新築する計画を練っていたのだ。この話を相談されたクルマ好きの友人たちは、これまでいろいろとクルマのことで世話になってお返しとばかりに、ガレージを建てるにあたり、知恵と労力を結集し、建築がスタート。「みんなに相談したところ、そりゃ自分たちで建てられるということ、最初に構想図を描いて見せてもらいました。そしたら、こりゃあシロウトのデザインじゃないわと思う素晴らしい図面ができてきたんです。話を聞くと、岡山のおしゃれな有名店を手がけている大工さんで、いろんな意味で不安になったんですが、「任せてちょ」というので、すべてお任せすることにしました」